

事後評価書（期中の評価）

都道府県名	北海道	関係市町村	スツツ 寿都町	期中評価実施の理由	④
事業名	直轄特定漁港漁場整備事業（直轄漁港整備事業）				
地区名	スツツ 寿都	事業主体	国（北海道開発局）		

I 基本事項

1. 地区概要

漁港名（種別）	寿都漁港（第3種）	漁場名	—
陸揚金額	369 百万円	陸揚量	1,372 トン
登録漁船隻数	80 隻	利用漁船隻数	93 隻
主な漁業種類	大型定置網、小型定置網、その他刺網	主な魚種	ホッケ、ブリ類、サケ類
漁業経営体数	42 経営体	組合員数	60 人
地区の特徴	寿都漁港は、北海道日本海側中部の寿都湾に位置し、ホッケ・サケ・イカ等の沿岸漁業及びホタテガイ・カキ養殖漁業の水産物流通拠点漁港として、また道内外イカ釣り漁業の陸揚基地として重要な役割を担っている。		

2. 事業概要

事業目的	寿都島牧圏域の流通拠点漁港として、屋根付き岸壁等の整備によりホタテガイ等の衛生的な陸揚げ環境を確保し、国内外への水産物供給力強化を図る。また、防災対策を強化し、耐震性能を強化した岸壁及び道路等の整備により、大規模災害時の水産業の早期再開を図る。さらに、物揚場の改良整備により、非効率な作業を解消し、漁業活動の効率化を図る。		
主要工事計画	-3.0m岸壁(南)68m、-3.5m岸壁(南)62m、北防波堤(改良)80m ほか		
事業費	6,143百万円	事業期間	平成29年度～令和12年度
既投資事業費	4,434百万円	事業進捗率(%)	72%

II 点検項目

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

	直前の評価	今回の評価	※別紙「費用対効果分析集計表」とおり
総費用（千円）	3,091,972	7,173,132	
総便益（千円）	3,822,058	8,268,519	
費用便益費(B/C)	1.24	1.15	
総費用の変更の理由			
資材価格や労務単価が大幅に上昇するとともに、南港区の工事に際し、湧水の発生に伴う止水対策等が必要となった結果、総費用が増加した。			
便益算定項目について変更がある場合はその項目と変更の理由			
便益全体として、原単位の更新や避難対象漁船の増加により便益が増加した。			
その他費用対効果分析に係る要因の変化			
南港区の整備にあたり、岸壁工事の止水対策に期間を要したことにより、事業の完了予定年度を変更（平成38年度→令和12年度）した。			

2. 漁業情勢、社会経済情勢の変化	
(1) 漁業情勢及び漁港施設、漁場施設等の利用状況と将来見通し	
	計画策定後の漁業集落に関わる社会経済状況、自然状況の当初想定との相違と将来見通し 漁港利用漁業者数は、高齢化に伴う廃業等により減少傾向は見られるものの、地域の取組もあり後継者も確保されていることから、今後も同程度に推移すると見込まれる。
	漁業形態、流通形態について当初想定との相違と将来見通し 寿都町漁業協同組合では、寿都漁港を流通拠点漁港として、近隣漁港からの漁獲物の集約による流通形態の効率化を推進するとともに、安全・安心な水産物の供給を図るため、衛生管理対策の強化に取り組んでおり、今後も安定的な漁家経営が見込まれる。
	漁港施設等の利用状況について当初想定との相違と将来見通し 組合員数は減少傾向にあるものの、海上蓄養施設を利用したウニの安定出荷やホタテガイ・カキ養殖の展開などにより安定的な漁業経営体制が確保されていることから、今後も同程度の利用が見込まれる。
(2) その他社会情勢の変化	
	該当なし
3. 事業の進捗状況	
	平成29年度では、物揚場の改良が完了し漁業活動の効率化が図られたほか、ホタテガイ等の衛生管理対策として南港区の整備が進捗しており、事業の進捗率は72%である。残事業として、南港区の整備を令和12年度完了に向けて引き続き推進する。
4. 関連事業の進捗状況	
	該当なし
5. 地元（受益者、地方公共団体等）の意向	
	1) 寿都町 寿都漁港は、寿都湾周辺で操業するホッケやイカナゴ等の沿岸漁業、ホタテ・カキ養殖漁業の陸揚げ拠点として、また、周辺海域で操業するイカ釣り等外来漁船の陸揚げ拠点として重要な役割を担っている。 しかし、寿都漁港には耐震性能が強化された岸壁が無く、震災発生後に漁業活動が長期間休止する懸念がある。また、主要漁種であるホタテガイ・カキ養殖漁業は野天での陸揚げ・出荷作業を行っているため、衛生管理対策が必要である。 このため、これらの課題を解決するための継続した漁港整備を強く要望する。 2) 寿都町漁業協同組合 寿都漁港では、古くからホタテガイの養殖を行っていることに加え、近年はカキの養殖とブランド化に取り組んでおり、これらの養殖漁業は漁家収入の安定に大きく寄与しているところである。衛生管理対策の推進により、ホタテガイやカキのブランド価値向上を図るため、引き続き、屋根付き岸壁及び用地等の整備を強く要望する。
6. 事業コスト縮減等の可能性	
	北防波堤（改良）の港外側の改良により不要となった消波ブロックを、港内側の消波ブロック据付に流用することで、事業コストの縮減に努める。
7. 代替案の実現可能性	
	該当なし

Ⅲ 総合評価

寿都地区直轄特定漁港漁場整備事業は、地元漁業者の安全かつ効率的な漁業活動に寄与するだけでなく、地域の基幹産業である水産業の維持や道内水産物の安定供給を確保するためにも重要な事業である。

事業の必要性・重要性に変化は無く、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業計画の見直し及び事業の継続は妥当である。

引き続き、コスト縮減に取り組むとともに、適正な事業費および事業期間の管理に努める。

費用対効果分析集計表

1 基本情報

都道府県名	北海道	地区名	スツ 寿都
事業名	直轄特定漁港漁場整備事業	施設の耐用年数	50年

2 評価項目

	評価項目		便益額（現在価値化）	
	便益の 評価項目 及び 便益額	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	1,199,901
②漁獲機会の増大効果				千円
③漁獲可能資源の維持・培養効果				千円
④漁獲物付加価値化の効果			95,219	千円
漁業就労環境の向上		⑤漁業就労環境の労働環境改善効果	170,248	千円
生活環境の向上		⑥生活環境の改善効果		千円
地域産業の活性化		⑦漁業外産業への効果		千円
非常時・緊急時の対処		⑧生命・財産保全・防御効果	641,893	千円
		⑨避難・救助・災害対策効果	6,161,258	千円
自然保全・文化の継承		⑩自然環境保全・修復効果		千円
		⑪景観改善効果		千円
		⑫地域文化保全・継承効果		千円
その他		⑬漁港利用者の利便性向上効果		千円
		⑭その他		千円
計（総便益額）		B	8,268,519	千円
総費用額（現在価値化）		C	7,173,132	千円
費用便益比		B / C	1.15	

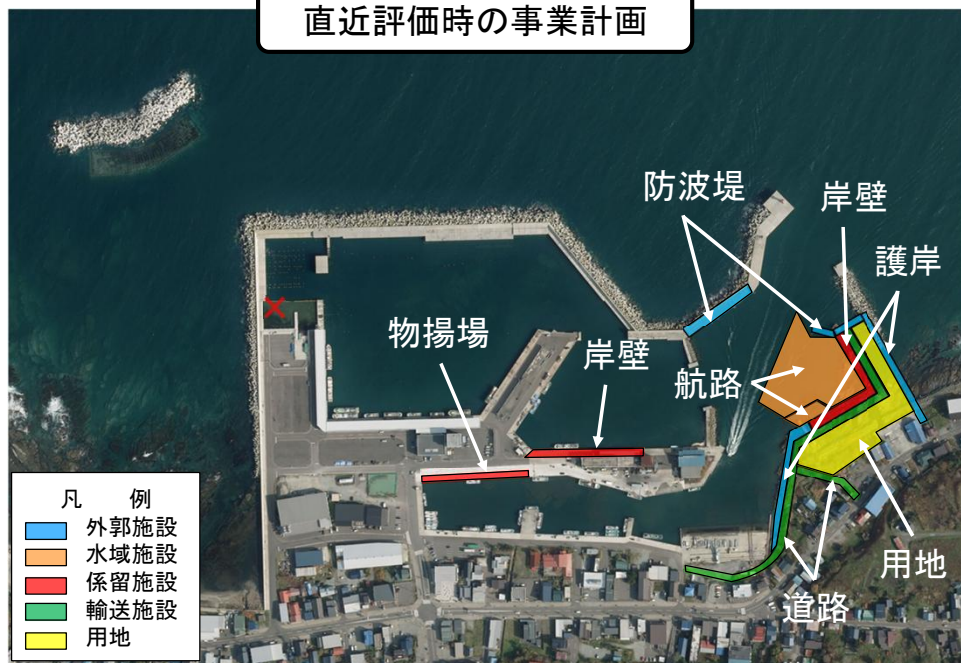
3 事業効果のうち貨幣化が困難な効果

<ul style="list-style-type: none"> ・ 寿都地域マリンビジョンと連携した地産地消の推進や地域PRの促進 ・ 衛生管理対策を通じた水産物のブランド価値向上

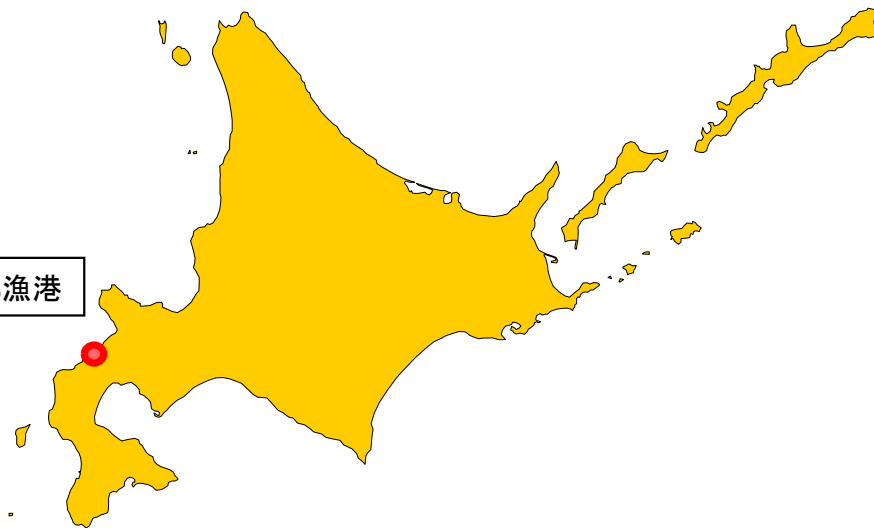
直轄特定漁港漁場整備事業 寿都地区 事業概要図

【整理番号1】

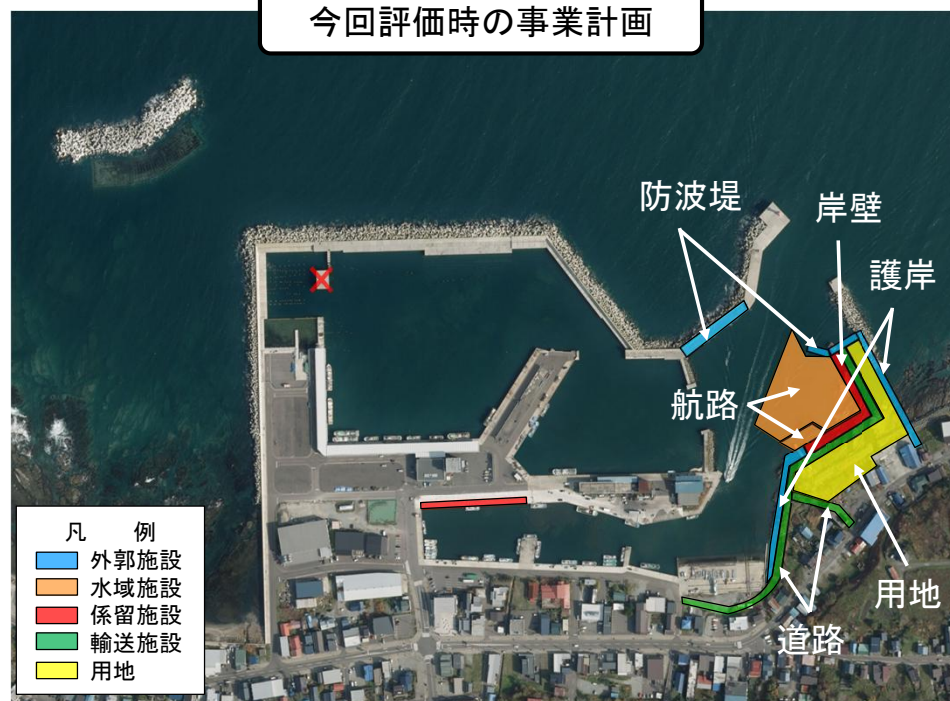
直近評価時の事業計画



第3種 寿都漁港



今回評価時の事業計画



事業主体：国（北海道開発局）

主要工事計画：
 -3.0m岸壁（南） 68.0m
 -3.5m岸壁（南） 62.0m
 北防波堤（改良） 80.0m ほか

（直近評価の事業費及び事業期間）

事業費：3,729百万円

事業期間：平成29年度～平成38（令和8）年度

（今回評価時の事業費及び事業期間）

事業費：6,143百万円

事業期間：平成29年度～令和12年度

寿都地区 直轄特定漁港漁場整備事業の効用に関する説明資料

1. 事業概要

- (1) 事業目的 : 寿都島牧圏域の流通拠点漁港として、屋根付き岸壁等の整備によりホタテガイ等の衛生的な陸揚げ環境を確保し、国内外への水産物供給力強化を図る。また、防災対策を強化し、耐震性能を強化した岸壁及び道路等の整備により、大規模災害時の水産業の早期再開を図る。さらに、物揚場の改良整備により、非効率な作業を解消し、漁業活動の効率化を図る。
- (2) 主要工事計画 : -3.0m岸壁(南)68m、-3.5m岸壁(南)62m、北防波堤(改良)80m ほか
- (3) 事業費 : 6,143 百万円
- (4) 工期 : 平成29年度～令和12年度

2. 総費用便益比の算定

(1) 総費用総便益比の総括

区分	算定式	数値
総費用(現在価値化)	①	7,173,132 (千円)
総便益額(現在価値化)	②	8,268,519 (千円)
総費用総便益比	②÷①	1.15

(2) 総費用の総括

施設名	整備規模	事業費(千円)
北防波堤(改良)	L= 80.0 m	895,526
南防波堤	L= 20.0 m	701,000
護岸(南)	L= 167.0 m	690,996
-3.5m泊地	A= 6,000 m ²	217,720
-3.0m泊地	A= 500 m ²	181,310
-3.5m岸壁(南)	L= 62.0 m	1,168,357
-3.5m岸壁(改良)	L= 120.0 m	0
-3.0m岸壁(南)	L= 68.0 m	1,280,577
-2.5m物揚場(改良)	L= 109.0 m	128,394
道路	L= 477.0 m	448,418
道路護岸(南)	L= 138.0 m	219,000
用地	A= 4,830 m ²	212,200
計		6,143,498
維持管理費等		22,249
総費用(消費税込)		6,165,747
内、消費税額		549,228
総費用(消費税抜)		5,616,519
現在価値化後の総費用		7,173,132

(3) 年間標準便益

効果項目	区分	年間標準 便益額 (千円)	効果の要因
水産物生産コストの削減効果		69,054	<ul style="list-style-type: none"> ・南埠頭及び屋根付き岸壁整備による陸揚・荷捌作業時間の短縮 ・南埠頭及び屋根付き岸壁整備による準備作業時間の短縮 ・南埠頭整備による漁船耐用年数の延長 ・南埠頭整備による出荷車両の運搬時間の削減 ・防波堤の改良による見回り作業時間の短縮
漁獲物付加価値化の効果		5,794	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根付き岸壁整備による漁獲物の品質保持
漁業就業者の労働環境改善効果		9,490	<ul style="list-style-type: none"> ・南埠頭及び屋根付き岸壁整備による陸揚・荷捌作業環境の改善 ・物揚場の改良整備による労働環境の改善
生命・財産保全・防御効果		47,086	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性能を強化した岸壁整備による漁業活動休止被害の回避及び施設復旧費用の削減
避難・救助・災害対策効果		324,738	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港整備による海難損失の回避
	計	456,162	

(4) 費用及び便益の現在価値算定表

評価期間	年度	割引率	デフ レート	費用(千円)		便益(千円)						
				事業費(維持 管理費含む)	現在価値(維 持管理費含 む)	水産物生 産コスト の削減効 果	漁獲物付 加価値化 の効果	漁業就業 者の労働 環境改善 効果	生命・財 産保全・ 防御効果	避難・救 助・災害 対策効果	計	現在価値
				③	①×②×③						④	①×④
0	H28	1.423	1.484	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	H29	1.369	1.446	166,667	329,930	0	0	0	0	0	0	0
2	H30	1.316	1.401	453,712	836,516	0	0	1,102	0	0	1,102	1,450
3	R1	1.265	1.363	311,199	536,568	0	0	1,102	0	0	1,102	1,394
4	R2	1.217	1.342	786,372	1,284,314	0	0	1,102	0	0	1,102	1,341
5	R3	1.170	1.295	365,463	553,731	0	0	1,102	0	0	1,102	1,289
6	R4	1.125	1.191	438,205	587,140	0	0	1,102	0	0	1,102	1,240
7	R5	1.082	1.070	318,216	368,411	0	0	1,102	0	0	1,102	1,192
8	R6	1.040	1.000	815,489	848,109	0	0	1,102	0	0	1,102	1,146
9	R7	1.000	1.000	387,307	387,307	0	0	1,102	0	0	1,102	1,102
10	R8	0.962	1.000	727,307	699,669	0	0	1,102	0	0	1,102	1,060
11	R9	0.925	1.000	395,651	365,977	0	0	1,102	0	0	1,102	1,019
12	R10	0.889	1.000	165,696	147,304	0	0	1,102	0	0	1,102	980
13	R11	0.855	1.000	68,528	58,591	25,628	0	1,102	0	324,738	351,468	300,505
14	R12	0.822	1.000	197,790	162,583	25,628	0	1,102	0	324,738	351,468	288,907
15	R13	0.790	1.000	405	320	69,054	5,794	9,490	47,086	324,738	456,162	360,368
16	R14	0.760	1.000	405	308	69,054	5,794	9,490	46,459	324,738	455,535	346,207
17	R15	0.731	1.000	405	296	69,054	5,794	9,490	45,839	324,738	454,915	332,543
18	R16	0.703	1.000	405	285	69,054	5,794	9,490	45,228	324,738	454,304	319,376
19	R17	0.676	1.000	405	274	69,054	5,794	9,490	44,625	324,738	453,701	306,702
20	R18	0.650	1.000	405	263	69,054	5,794	9,490	44,030	324,738	453,106	294,519
21	R19	0.625	1.000	405	253	69,054	5,794	9,490	43,443	324,738	452,519	282,824
22	R20	0.601	1.000	405	243	69,054	5,794	9,490	42,864	324,738	451,940	271,616
23	R21	0.577	1.000	405	234	69,054	5,794	9,490	42,292	324,738	451,368	260,439
24	R22	0.555	1.000	405	225	69,054	5,794	9,490	41,728	324,738	450,804	250,196
25	R23	0.534	1.000	405	216	69,054	5,794	9,490	41,172	324,738	450,248	240,432
26	R24	0.513	1.000	405	208	69,054	5,794	9,490	40,623	324,738	449,699	230,696
27	R25	0.494	1.000	405	200	69,054	5,794	9,490	40,081	324,738	449,157	221,884
28	R26	0.475	1.000	405	192	69,054	5,794	9,490	39,547	324,738	448,623	213,096
29	R27	0.456	1.000	405	185	69,054	5,794	9,490	39,020	324,738	448,096	204,332
30	R28	0.439	1.000	405	178	69,054	5,794	9,490	38,499	324,738	447,575	196,485
31	R29	0.422	1.000	405	171	69,054	5,794	9,490	37,986	324,738	447,062	188,660
32	R30	0.406	1.000	405	164	69,054	5,794	9,490	37,480	324,738	446,556	181,302
33	R31	0.390	1.000	405	158	69,054	5,794	9,490	36,980	324,738	446,056	173,962
34	R32	0.375	1.000	405	152	69,054	5,794	9,490	36,487	324,738	445,563	167,086
35	R33	0.361	1.000	405	146	69,054	5,794	9,490	36,000	324,738	445,076	160,672
36	R34	0.347	1.000	405	141	69,054	5,794	9,490	35,520	324,738	444,596	154,275
37	R35	0.333	1.000	405	135	69,054	5,794	9,490	35,047	324,738	444,123	147,893
38	R36	0.321	1.000	405	130	69,054	5,794	9,490	34,579	324,738	443,655	142,413
39	R37	0.308	1.000	405	125	69,054	5,794	9,490	34,118	324,738	443,194	136,504
40	R38	0.296	1.000	405	120	69,054	5,794	9,490	33,663	324,738	442,739	131,051
41	R39	0.285	1.000	405	115	69,054	5,794	9,490	33,215	324,738	442,291	126,053
42	R40	0.274	1.000	405	111	69,054	5,794	9,490	32,772	324,738	441,848	121,066
43	R41	0.264	1.000	405	107	69,054	5,794	9,490	32,335	324,738	441,411	116,533
44	R42	0.253	1.000	405	102	69,054	5,794	9,490	31,904	324,738	440,980	111,568
45	R43	0.244	1.000	405	99	69,054	5,794	9,490	31,478	324,738	440,554	107,495
46	R44	0.234	1.000	405	95	69,054	5,794	9,490	31,058	324,738	440,134	102,991
47	R45	0.225	1.000	405	91	69,054	5,794	9,490	30,644	324,738	439,720	98,937
48	R46	0.217	1.000	405	88	69,054	5,794	9,490	30,236	324,738	439,312	95,331
49	R47	0.208	1.000	405	84	69,054	5,794	9,490	29,833	324,738	438,909	91,293
50	R48	0.200	1.000	405	81	69,054	5,794	9,490	29,435	324,738	438,511	87,702
51	R49	0.193	1.000	405	78	69,054	5,794	9,490	29,042	324,738	438,118	84,557
52	R50	0.185	1.000	396	73	69,054	5,794	8,388	28,655	324,738	436,629	80,776
53	R51	0.178	1.000	396	70	69,054	5,794	8,388	28,273	324,738	436,247	77,652
54	R52	0.171	1.000	396	68	69,054	5,794	8,388	27,896	324,738	435,870	74,534
55	R53	0.165	1.000	396	65	69,054	5,794	8,388	27,524	324,738	435,498	71,857
56	R54	0.158	1.000	382	60	25,628	0	0	0	324,738	350,366	55,358
57	R55	0.152	1.000	370	56	25,628	0	0	0	324,738	350,366	53,256
58	R56	0.146	1.000	370	54	25,628	0	0	0	324,738	350,366	51,153
59	R57	0.141	1.000	370	52	25,628	0	0	0	324,738	350,366	49,402
60	R58	0.135	1.000	370	50	25,628	0	0	0	324,738	350,366	47,299
61	R59	0.130	1.000	208	27	25,628	0	0	0	324,738	350,366	45,548
62	R60	0.125	1.000	163	20	0	0	0	0	0	0	0
63	R61	0.120	1.000	58	7	0	0	0	0	0	0	0

64	R62	0.116	1.000	58	7	0	0	0	0	0	0	0
計				5,616,519	7,173,132	計				8,268,519		

※評価期間は、便益対象施設が複数ある場合、各施設の整備毎に効果が発生するものとして算定

※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

3. 効果額の算定方法

(1) 水産物生産コストの削減効果

①南埠頭及び屋根付き岸壁整備による陸揚・荷捌作業時間の短縮

寿都漁港では、午前中の出荷に間に合うよう、ホタテ・カキ養殖漁業が同時陸揚げ・選別・出荷を行っている。他の漁業種の陸揚げも午前中に集中するため、ホタテ・カキ養殖漁業は、護岸での陸揚げや狭隘な用地での陸揚げ作業等、非効率な作業形態となっている。スペース不足のため、フォークリフトが使用できず人力で台車を用いた運搬等により作業時間がかかっている状況にある。また、陸揚げ後の籠の洗浄作業においても、用地不足のため、陸揚げ後に岸壁上で作業を行っている状況にある。そのため、狭隘なスペースで各作業が交錯している状態にあることから、ホタテ漁業岸壁の整備によって、適切な作業スペースの確保が可能となり陸揚・荷捌作業時間の短縮が図られるとともに、陸揚げ後の籠の洗浄も、岸壁背後の用地に運搬しての洗浄作業となるため、作業の交錯が生じず、作業時間の効率化が図られる。

区分			数量	備考			
漁船隻数	ホタテ	3～5t船 (隻)	6	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査			
		5～10t船 (隻)	3				
	カキ	3～5t船 (隻)	2				
		5～10t船 (隻)	2				
出漁日数	ホタテ	本分散 (日/年)	6				
		稚貝入替 (日/年)	10				
		出荷 (日/年)	58				
	カキ	仮殖 (日/年)	2				
出荷 (日/年)		34					
作業人数 (人/隻)			9				
漁業者 労務単価	3～5t船 (円/時間)		2,075	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より			
	5～10t船 (円/時間)		2,843				
陸揚・荷捌作業	整備前作業時間	ホタテ	本分散 (時間/日)	6.0	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査		
			稚貝入替 (時間/日)	6.0			
			出荷 (時間/日)	3.0			
		カキ	仮殖 (時間/日)	6.0			
			出荷 (時間/日)	3.0			
			整備後作業時間	ホタテ		本分散 (時間/日)	4.0
	稚貝入替 (時間/日)	4.0					
	出荷 (時間/日)	1.5					
	カキ	仮殖 (時間/日)		4.0			
		出荷 (時間/日)		1.5			
		作業時間削減効果		ホタテ		本分散	3～5t船 (千円/年)
	5～10t船 (千円/年)		921				
稚貝入替	3～5t船 (千円/年)		2,241				
	5～10t船 (千円/年)		1,535				
	出荷		3～5t船 (千円/年)		9,748		
5～10t船 (千円/年)	6,678						
カキ	仮殖		3～5t船 (千円/年)	149			
			5～10t船 (千円/年)	205			
	出荷		3～5t船 (千円/年)	1,905			
			5～10t船 (千円/年)	2,610			
		年間便益額 (千円/年)	27,337	⑦の計			

②南埠頭及び屋根付き岸壁整備による準備作業時間の短縮

②-1 岸壁洗浄作業時間の短縮

現在、屋外での陸揚げのため、鳥糞や強風による塵埃等により、陸揚げ前に念入りに岸壁洗浄を行っている。また、施設不足のため、養殖作業に対応した排水機能が不十分なため、残渣集約等、使用後のエプロン洗浄作業にも時間を要している状況にある。ホタテ漁業岸壁の整備によって、岸壁洗浄等の準備作業に要する作業時間の短縮が図られる。

区分			数量	備考	
漁船隻数	ホタテ	3～5t船 (隻)	6	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
		5～10t船 (隻)	3		
	カキ	3～5t船 (隻)	2		
		5～10t船 (隻)	2		
出漁日数	ホタテ	本分散 (日/年)	6		
		稚貝入替 (日/年)	10		
		出荷 (日/年)	58		
	カキ	仮殖 (日/年)	2		
出荷 (日/年)		34			
作業人数 (人/隻)			③		9
漁業者 労務単価	3～5t船 (円/時間)	④	2,075	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より	
	5～10t船 (円/時間)		2,843		
整備前作業時間 (時間/日)			⑤	0.83	
整備後作業時間 (時間/日)			⑥	0.42	
岸壁洗浄作業 作業時間削減効果	ホタテ	本分散	3～5t船 (千円/年)	276	①×②×③×④×(⑤-⑥)/1,000 ※漁船階層別・作業種別に算出
			5～10t船 (千円/年)	189	
		稚貝入替	3～5t船 (千円/年)	459	
			5～10t船 (千円/年)	315	
		出荷	3～5t船 (千円/年)	2,665	
			5～10t船 (千円/年)	1,825	
	カキ	仮殖	3～5t船 (千円/年)	31	
			5～10t船 (千円/年)	42	
		出荷	3～5t船 (千円/年)	521	
			5～10t船 (千円/年)	713	
年間便益額 (千円/年)				7,036	⑦の計

②-2 除雪作業時間の短縮

ホタテは通年での操業のため、冬期の操業の際には、除雪を行ってからの作業となっている。屋根付き岸壁の整備により、除雪に要する作業時間の短縮が図られる。

区分				数量	備考		
漁船隻数	ホタテ	3～5t船 (隻)		6	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査 ・操業日数は、冬期（11月～3月）		
		5～10t船 (隻)		3			
	カキ	3～5t船 (隻)		2			
		5～10t船 (隻)		2			
出漁日数	ホタテ	浮力調整等 (日/年)		25			
		出荷 (日/年)		32			
	カキ	浮力調整等 (日/年)		25			
除雪作業	除雪作業割合 (%)			③	8.5	11月～3月における寿都観測所における10cm以上の降雪日の割合(気象庁アメダスデータ(寿都観測所))	
	除雪日数	ホタテ浮力調整等 (日/年)		④	2.0	②×③	
		ホタテ出荷 (日/年)		④	3.0		
		カキ浮力調整等 (日/年)		④	2.0		
	整備前作業時間 (時間/日)			⑤	1.0	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
	整備後作業時間 (時間/日)			⑥	0.0		
	作業人数	浮力調整等 (人/隻)		⑦	3	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
		出荷 (人/隻)		⑦	9		
	漁業者 労務単価	3～5t船 (円/時間)		⑧	2,075	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より	
		5～10t船 (円/時間)		⑧	2,843		
	作業時間削減 効果	ホタテ	浮力調整等	3～5t船 (千円/年)	⑨	75	①×④×(⑤-⑥)×⑦×⑧/1,000 ※漁船階層別・作業種別に算出
				5～10t船 (千円/年)	⑨	51	
			出荷	3～5t船 (千円/年)	⑨	336	
5～10t船 (千円/年)				⑨	230		
カキ		浮力調整等	3～5t船 (千円/年)	⑨	25		
			5～10t船 (千円/年)	⑨	34		
年間便益額 (千円/年)					751	⑨の計	

③南埠頭整備による漁船耐用年数の延長

寿都漁港では、10t未満漁船は-2.5m物揚場に全漁船係留しているが、休憩岸壁が不足しているため、多そう係留を強いられており漁船同士の接触により耐用年数が低下している。南埠頭を整備し、これにともなう漁港利用再編により休憩岸壁が増加し、多そう係留が解消されることから、耐用年数の増加が見込まれる。

区分				数量	備考	
漁船隻数	刺網、ホタテ (隻)		①	8	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
平均トン数	3～5t船 (ト)		②	4.5	R5港勢調査	
総トン数	刺網、ホタテ (ト)		③	36.0	①×②	
整備前漁船耐用年数	(年)		④	7	減価償却資産の耐用年数等に関する省令(財務省)	
整備後漁船耐用年数	(年)		⑤	10.17	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン-参考資料-(令和7年6月、水産庁)	
漁船建造費	(千円/ト)		⑥	5,009		
漁船耐用年数延長 効果	刺網、ホタテ (千円/年)		⑦	8,030	③×(1/④-1/⑤)×⑥ ※漁業種別に算出	
年間便益額 (千円/年)					8,030	⑦の計

④南埠頭整備による出荷車両の運搬時間の削減

現在、ホタテ陸揚げトラックは、イカ等の他の出荷トラックと同じ道路を利用しているが、作業時間が集中しているため時間が掛かっている状況にある。南埠頭整備により、漁港から国道までの距離が短くなり、ホタテ及びカキの出荷車両の国道へのアクセス時間および燃料費が削減する。

区分		数量	備考	
車両台数	(台/回)	①	2	
出荷日数	ホタテ出荷 (日/年)	②	58	
	カキ出荷 (日/年)	③	34	
往復回数	(往復)	④	1	
作業人数	(人/台)	⑤	1	
整備前走行距離(片道)	(km)	⑥	2.6	
整備後走行距離(片道)	(km)	⑦	2.1	
運転手労務単価	(円/時間)	⑧	2,210	
運搬時間の削減	整備前作業時間 (時間/日)	⑨	0.13	
	整備後作業時間 (時間/日)	⑩	0.11	
	運搬時間削減効果	ホタテ出荷 (千円/年)	⑪	5
		カキ出荷 (千円/年)	⑫	3
運搬時間削減額	(千円/年)	⑬	8	
車両経費の削減	走行経費 (円/km)	⑭	46.21	
	GDPデフレーター (R7)	⑮	110.2	
	GDPデフレーター (R6)	⑯	110.2	
	車両経費削減効果	ホタテ出荷 (千円/年)	⑰	5
		カキ出荷 (千円/年)	⑱	3
車両経費削減額	(千円/年)	⑲	8	
積込時間の削減	出荷日数(ホタテ)	⑳	58	
	整備前作業時間 (時間/日)	㉑	1	
	整備後作業時間 (時間/日)	㉒	0	
	作業時間削減額	(千円/年)	㉓	256
年間便益額	(千円/年)	㉔	272	

⑤防波堤の改良による見回り作業時間の短縮

整備前は、波浪注意報（有義波高3m以上）が発令されるような波浪状況においては、港内に係留する漁船が波で動揺するため、水面係留漁船に関しては見回りが必要な状況であった。南港区が整備されたことで港内の静穏性が向上し波浪注意報時の見回り時間の削減が可能となった。当該便益の隻数については、港内の岸壁や船揚場を利用している漁船を対象とする。

区分		数量	備考		
見回り時間の削減	対象漁船隻数 (0~3t)	(隻) ①	46		
	対象漁船隻数 (3~5t)	(隻) ②	2		
	対象回数	(回/年) ③	55.2		
	対象作業人数	(人/隻) ④	2		
	波浪注意報以上発令1回あたり継続時間	(時間) ⑤	37.6		
	見回り時間間隔	整備前 (時間) ⑥	6.0		
		整備後 (時間) ⑦	24.0		
	作業時間	整備前 (時間/回) ⑧	1.25		
		整備後 (時間/回) ⑨	0.25		
	漁業者労務単価	(0~3t) (円/時間) ⑩	1,632	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より	
		(3~5t) (円/時間) ⑪	2,075		
	年間便益額	(0~3t) (千円/年) ⑫	61,676		①×③×④×(⑤/⑥×⑧-⑤/⑦×⑨)×⑩
		(3~5t) (千円/年) ⑬	3,409		②×③×④×(⑤/⑥×⑧-⑤/⑦×⑨)×⑪
		(合計) (千円/年) ⑭	65,085	⑫+⑬	
車両経費の削減	対象作業台数	⑮	2.0		
	移動距離	⑯	2.0		
	走行経費	⑰	23.57		
	GDPデフレーター (R7)	⑱	110.2		
	GDPデフレーター (R6)	⑲	110.2		
	年間便益額	(0~3t) (千円/年) ⑳	1,125	①×③×⑮×(⑤/⑥-⑤/⑦)×⑰×(⑱/⑲)	
		(3~5t) (千円/年) ㉑	49	②×③×⑮×(⑤/⑥-⑤/⑦)×⑰×(⑱/⑲)	
(合計) (千円/年) ㉒		1,174	⑳+㉑		
警戒係留作業時間削減	対象回数	(回/年) ㉓	55.2		
	対象作業人数	(人/隻) ㉔	2.0		
	整備前作業時間	(時間/回) ㉕	2.00		
	整備後作業時間	(時間/回) ㉖	0.00		
	漁業者労務単価	(0~3t) (円/時間) ㉗	1,632	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より	
		(3~5t) (円/時間) ㉘	2,075		
	年間便益額	(0~3t) (千円/年) ㉙	16,576		①×③×②×(㉕-㉖)×㉗
(3~5t) (千円/年) ㉚		916	②×③×②×(㉕-㉖)×㉘		
	(合計) (千円/年) ㉛	17,492	㉙+㉚		
総便益額	(千円/年) ㉜	83,751	⑭+㉒+㉛		
本特定計画における便益対象施設の整備延長	(m) ㉝	267			
前特定計画における便益対象施設の整備延長	(m) ㉞	605			
按分率	(%) ㉟	30.6	(㉝/(㉝+㉞))		
年間便益額	(千円/年)	25,628	㉟×㉟		

(2) 漁獲物付加価値化の効果

① 屋根付き岸壁整備による漁獲物の品質保持

ホタテ、カキ等は野天での陸揚げ及び、屋根下での陸揚げ作業も規模が不足し、屋根下での作業が十分にできない状況にあり、直射日光によるホタテの活力低下や鳥糞による異物混入等の懸念がある。南ふ頭で養殖漁業に対応した屋根付き岸壁が整備されることにより、鳥糞や塵埃等の異物混入の防止や、直射日光・風雪雨の影響を受けずに鮮度を保持したまま市場へ出荷することが可能となる。これにより、魚価の低下を防ぐことが期待され、魚価下落防止効果を計上する。なお、各陸揚げの後、ソフト対策を含めて衛生管理の持続性を確保するための点検等を実施していく予定である。

区分			数量	備考
対象漁業生産額	ホタテ	年間生産量 (t/年) ①	222.4	北海道水産現勢 (H14～H28の平均値)
		単価 (千円/t) ②	257.3	
		年間生産額 (千円/年) ③	57,224	
	カキ	年間生産量 (t/年) ④	6.2	北海道水産現勢 (H14～H28の平均値)
		単価 (千円/t) ⑤	497.9	
		年間生産額 (千円/年) ⑥	3,087	
魚価安定化率 (%) ⑦			10	直轄特定漁港漁場整備事業計画基礎資料作成その他業務報告書 (H26北海道開発局)
年間維持管理費 (千円/年) ⑧			237	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
年間便益額	ホタテ ⑨		5,497	$③ \times ⑦ - (⑧ \times ③) / (③ + ⑥)$
	カキ ⑩		297	$⑥ \times ⑦ - (⑧ \times ⑥) / (③ + ⑥)$
年間便益額 (千円/年)			5,794	⑩+⑨

(3) 漁業就業者の労働環境改善効果

①南埠頭及び屋根付き岸壁整備による陸揚・荷捌作業環境の改善

現在、養殖漁業は作業スペース不足のため、それぞれの作業において十分な作業スペースを確保することができず、人とフォークリフトの交錯等のおそれがある。また、通年で強風地帯である当漁港で屋外での作業を強いられている。ホタテ養殖漁業岸壁の整備によって、陸揚・荷捌作業における就労環境の改善が図られる。

		区分		数量	備考	
冬期以外 (4/11月)	漁船隻数	ホタテ	3~5t船 (隻)	①	6	
			5~10t船 (隻)		3	
		カキ	3~5t船 (隻)		2	
			5~10t船 (隻)		2	
	対象日数	ホタテ	浮力調整等 (日/年)	②	40	
			本分散 (日/年)		6	
			稚貝入替 (日/年)		10	
			出荷 (日/年)		40	
		カキ	浮力調整等 (日/年)		40	
			仮殖 (日/年)		2	
	整備前 作業時間	ホタテ	浮力調整等 (時間/日)	③	4.0	
			本分散 (時間/日)		6.0	
			稚貝入替 (時間/日)		6.0	
			出荷 (時間/日)		3.0	
		カキ	浮力調整等 (時間/日)		4.0	
			仮殖 (時間/日)		6.0	
			出荷 (時間/日)		3.0	
	整備後 作業時間	ホタテ	浮力調整等 (時間/日)	④	2.0	
			本分散 (時間/日)		4.0	
稚貝入替 (時間/日)			4.0			
出荷 (時間/日)			1.5			
カキ		浮力調整等 (時間/日)	2.0			
		仮殖 (時間/日)	4.0			
		出荷 (時間/日)	1.5			
作業人数	ホタテ	浮力調整等 (人/隻)	⑤	3		
		本分散 (人/隻)		9		
		稚貝入替 (人/隻)		9		
		出荷 (人/隻)		9		
	カキ	浮力調整等 (人/隻)		3		
		仮殖 (人/隻)		9		
		出荷 (人/隻)		9		
整備前作業環境ランク		Bランク	⑥	1,154	公共工事設計労務単価(R7)	
整備後作業環境ランク		Cランク	⑦	1,000		
漁業労務者単価	3~5t船 (円/時間)	⑧	2,075	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より		
	5~10t船 (円/時間)		2,843			

調査日：令和7年6月4日
 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員
 調査実施者：小樽港湾事務所職員
 調査実施方法：ヒアリング調査

				区分	数量	備考			
冬期以外 (4/1~11月)	作業環境改善効果	ホタテ	浮力調整等	3~5t船 (千円/年)	460	①×②×(③-④)×⑤×(⑥-⑦)×⑧/1,000			
				5~10t船 (千円/年)	315				
			本分散	3~5t船 (千円/年)	207				
				5~10t船 (千円/年)	142				
			稚貝入替	3~5t船 (千円/年)	345				
				5~10t船 (千円/年)	236				
		出荷	3~5t船 (千円/年)	1,035					
			5~10t船 (千円/年)	709					
		カキ	浮力調整等	3~5t船 (千円/年)	153				
				5~10t船 (千円/年)	210				
			仮殖	3~5t船 (千円/年)	23				
				5~10t船 (千円/年)	32				
			出荷	3~5t船 (千円/年)	293				
				5~10t船 (千円/年)	402				
年間便益額 (千円/年)				⑩	4,562	⑨の計			
冬期 (12/翌3月)	漁船隻数	ホタテ	3~5t船 (隻)	6	⑪	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査			
			5~10t船 (隻)	3					
		カキ	3~5t船 (隻)	2					
			5~10t船 (隻)	2					
	対象日数	ホタテ	浮力調整等 (日/年)	15	⑫				
			出荷 (日/年)	18					
	カキ	浮力調整等 (日/年)	15						
		整備前作業時間	ホタテ	浮力調整等 (日/年)	4.0		⑬		
	出荷 (日/年)			3.0					
	カキ	浮力調整等 (日/年)	4.0						
		整備後作業時間	ホタテ	浮力調整等 (日/年)	2.0		⑭		
	出荷 (日/年)			1.5					
	カキ	浮力調整等 (日/年)	2.0						
		作業人数	ホタテ	浮力調整等 (人/隻)	3		⑮		
	出荷 (人/隻)			9					
	浮力調整等 (人/隻)			3					
	整備前作業環境ランク				Aランク		⑯	1,486	公共工事設計労務単価(R7)
	整備後作業環境ランク				Cランク		⑰	1,000	
	漁業労務者単価			3~5t船 (円/時間)	2,075		⑱	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より	
				5~10t船 (円/時間)	2,843				
作業環境改善効果	ホタテ	浮力調整等	3~5t船 (千円/年)	545	⑲	⑪×⑫×(⑬-⑭)×⑮×(⑯-⑰)×⑱/1,000			
			5~10t船 (千円/年)	373					
		出荷	3~5t船 (千円/年)	1,470					
			5~10t船 (千円/年)	1,007					
	カキ	浮力調整等	3~5t船 (千円/年)	182					
			5~10t船 (千円/年)	249					
年間便益額 (千円/年)				⑳	3,826	⑲の計			
年間便益額 (千円/年)					8,388	⑩+㉑			

②物揚場の改良整備による労働環境の改善

-2.5m物揚場は急勾配でさらに老朽化が進んでいるため、転倒等のおそれがある。車止めもないため、特に冬季は凍結により転倒、転倒のおそれもあり危険である。エプロン勾配改良により準備作業（漁労準備、給油）の労働環境の改善が図られる。

区分		数量	備考			
冬期以外 (4~10月)	漁船隻数	タコ漁業 (隻/回)	16			
		イカ釣り漁業 (隻/回)	1			
		イカナゴ漁業 (隻/回)	20			
		定置網・底建網漁業 (隻/回)	4			
		刺網漁業 (隻/回)	10			
		ナマコ漁業 (隻/回)	23			
	出漁日数	タコ漁業 (日/年)	42			
		イカ釣り漁業 (日/年)	25			
		イカナゴ漁業 (日/年)	24			
		定置網・底建網漁業 (日/年)	50			
		刺網漁業 (日/年)	22			
		ナマコ漁業 (日/年)	44			
	作業員数	タコ漁業 (人/隻)	2			
		イカ釣り漁業 (人/隻)	1			
		イカナゴ漁業 (人/隻)	2			
		定置網・底建網漁業 (人/隻)	3			
		刺網漁業 (人/隻)	3			
		ナマコ漁業 (人/隻)	2			
	整備前作業状況ランク		Bランク	④	1.154	公共工事設計労務単価(R7)
	整備後作業状況ランク		Cランク	⑤	1.000	
	作業時間	タコ漁業 (時間/日)	1.1	⑥	1.1	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
		イカ釣り漁業 (時間/日)	0.9			
		イカナゴ漁業 (時間/日)	0.9			
		定置網・底建網漁業 (時間/日)	1.0			
		刺網漁業 (時間/日)	1.3			
		ナマコ漁業 (時間/日)	0.9			
	漁業者 労務単価		3~5t船 (円/時間)	⑦	2,075	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より
労働環境改善効果	タコ漁業 (千円/年)	472	⑧	472	①×②×③×(④-⑤)×⑥×⑦/1000	
	イカ釣り漁業 (千円/年)	7				
	イカナゴ漁業 (千円/年)	276				
	定置網・底建網漁業 (千円/年)	192				
	刺網漁業 (千円/年)	274				
	ナマコ漁業 (千円/年)	582				
年間便益額		(千円/年)	⑨	1,803	⑧の計	

区分		数量	備考			
冬期（11月～翌3月）	漁船隻数	タコ漁業 (隻/回)	16			
		イカ釣り漁業 (隻/回)	1			
		イカナゴ敷網 (隻/回)	20			
		定置網・底建網漁業 (隻/回)	4			
		刺網漁業 (隻/回)	10			
		ナマコ漁業 (隻/回)	23			
	出漁日数	タコ漁業 (日/年)	30			
		イカ釣り漁業 (日/年)	15			
		イカナゴ敷網 (日/年)	10			
		定置網・底建網漁業 (日/年)	40			
		刺網漁業 (日/年)	42			
		ナマコ漁業 (日/年)	10			
	作業員数	タコ漁業 (人/隻)	2			
		イカ釣り漁業 (人/隻)	1			
		イカナゴ敷網 (人/隻)	2			
		定置網・底建網漁業 (人/隻)	3			
		刺網漁業 (人/隻)	3			
		ナマコ漁業 (人/隻)	2			
	整備前作業状況ランク		Aランク	⑬	1,486	公共工事設計労務単価(R7)
	整備後作業状況ランク		Cランク	⑭	1,000	
	作業時間	タコ漁業 (時間/日)		⑮	1.1	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
		イカ釣り漁業 (時間/日)			0.9	
		イカナゴ敷網 (時間/日)			0.9	
		定置網・底建網漁業 (時間/日)			1.0	
		刺網漁業 (時間/日)			1.3	
		ナマコ漁業 (時間/日)			0.9	
	漁業者 労務単価		3～5t船 (円/時間)	⑯	2,075	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より
労働環境改善効果	タコ漁業 (千円/年)		⑰	1,065	⑩×⑪×⑫×(⑬-⑭)×⑮×⑯	
	イカ釣り漁業 (千円/年)			14		
	イカナゴ敷網 (千円/年)			363		
	定置網・底建網漁業 (千円/年)			484		
	刺網漁業 (千円/年)			1,652		
	ナマコ漁業 (千円/年)			417		
年間便益額		(千円/年)	⑱	3,995	⑰の計	
年間便益額		(千円/年)	⑲	5,798	⑨+⑱	
本特定計画における便益対象施設の整備延長		(m)	⑳	109	全体整備延長573m	
前特定計画における便益対象施設の整備延長		(m)	㉑	464		
按分率		(%)	㉒	19.0	(㉒/(㉑+㉒))	
年間便益額		(千円/年)		1,102	⑲×㉒	

(4) 生命・財産保全・防御効果

①耐震性能を強化した岸壁整備による漁業活動休止被害の回避及び施設復旧費用の削減

大規模地震により、寿都漁港が壊滅的な被害を受けた場合、復旧に要する期間は、耐震性能を備えた岸壁を有する漁港のうち寿都漁港に最も近接する古平漁港を代替港として陸揚げ作業を余儀なくされる。耐震性能を強化した岸壁の整備により、地震による被災後にも当漁港で陸揚げが可能となり、漁業休業損失額を低減することが出来るとともに、古平漁港までの海上移動コストが削減される。なお、3t未満漁船は岸壁でなくとも斜路、前浜等でも陸揚げ可能であり、当漁港の主要漁業であるホッケ底建網、サケ定置、イカナゴ敷網、刺網、イカ釣り（地元船）、ホタテ、カキ養殖漁業を対象とする（イカ釣り外来船は他漁港の利用を想定）。

区分			数量	備考		
休業損失の回避（沿岸漁業）	震災時操業漁船隻数	定置網・底建網	3～5t船 (隻)	4	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
			5～10t船 (隻)	3		
			10～20t船 (隻)	2		
		イカナゴ敷網	3～5t船 (隻)	20		
			5～10t船 (隻)	1		
			刺網 3～5t船 (隻)	10		
	イカ釣り(地元)	3～5t船 (隻)	1			
	1隻あたりの平均トン数	3～5t船 (トン/隻)	4.50	②		港勢調査(R5)
		5～10t船 (トン/隻)	7.80			
		10～20t船 (トン/隻)	16.70			
	階層別総トン数	定置網・底建網	3～5t船 (トン)	18.00	③	①×②
			5～10t船 (トン)	23.40		
			10～20t船 (トン)	33.40		
		イカナゴ敷網	3～5t船 (トン)	90.00		
			5～10t船 (トン)	7.80		
			刺網 3～5t船 (トン)	45.00		
	イカ釣り(地元)	3～5t船 (トン)	4.50			
	対象漁業種の年間属地陸揚金額	定置網・底建網 (千円/年)		67,318	④	R1～R5港勢調査より5ヵ年平均値
		イカナゴ敷網 (千円/年)		76,473		
		刺網 (千円/年)		48,409		
		イカ釣り(地元船) (千円/年)		601		
	1隻あたりの年間生産額	底建網・定置網	3～5t船 (千円/年)	4,050	⑤	年間陸揚金額（R1～R5港勢調査より）、操業隻数、階層別総トン数から算出
			5～10t船 (千円/年)	7,020		
			10～20t船 (千円/年)	15,030		
イカナゴ敷網		3～5t船 (千円/年)	3,519			
		5～10t船 (千円/年)	6,099			
		刺網 3～5t船 (千円/年)	4,841			
イカ釣り(地元)	3～5t船 (千円/年)	601				
バース長	3-5t(イカナゴ敷網・刺網・イカ釣り(地元)) (m/隻)		18.5	⑥	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
	3-5t(底建・定置網) (m/隻)		18.6			
	5-10t(イカナゴ敷網) (m/隻)		22.4			
	5-10t(底建・定置網) (m/隻)		20.4			
	10-20t(底建・定置網) (m/隻)		29.1			

区分			数量	備考			
休業損失の回避 (沿岸漁業)	陸揚時間	定置網・底建網	(時間/隻)	2	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査		
		イカナゴ敷網	(時間/隻)	1			
		刺網	(時間/隻)	2			
		イカ釣	(時間/隻)	1			
	陸揚所要延長	定置網・底建網	3～5t船	(m・h/日)	148.8	①×⑥×⑦	
			5～10t船	(m・h/日)	122.4		
			10～20t船	(m・h/日)	116.4		
		イカナゴ敷網	3～5t船	(m・h/日)	370.0		
			5～10t船	(m・h/日)	22.4		
			刺網	3～5t船	(m・h/日)		370.0
	イカ釣(地元)	3～5t船	(m・h/日)	18.5			
	陸揚可能延長	整備前	バース長	(m)	⑨ 211	古平漁港：第2港区-3.5m岸壁 211m	
			可能時間	(h/日)	⑩ 4	古平漁港：市場開設時間(8:00～12:00)より、4時間	
			可能延長	(m・h/日)	⑪ 844	⑨×⑩	
		整備後	バース長	(m)	⑫ 112	寿都漁港：-3.5m岸壁の延長分	
	可能時間		(h/日)	⑬ 10	寿都漁港：被災後の市場開設時間(6～16時)より、10時間		
	陸揚利用延長	整備前	定置網・底建網	3～5t船	(m・h/日)	148.8	陸揚げ利用延長は、陸揚げ可能延長を上限として、漁船階層・漁業種別で設定した優先順位を基に、陸揚げ所要延長の合計値により算定した。 ※陸揚げ優先順位は、年間生産額が高い漁業の順に設定した。
				5～10t船	(m・h/日)	122.4	
				10～20t船	(m・h/日)	116.4	
			イカナゴ敷網	3～5t船	(m・h/日)	370.0	
5～10t船				(m・h/日)	22.4		
刺網				3～5t船	(m・h/日)	64.0	
イカ釣(地元)		3～5t船	(m・h/日)	0.0			
整備後		定置網・底建網	3～5t船	(m・h/日)	148.8		
			5～10t船	(m・h/日)	122.4		
			10～20t船	(m・h/日)	116.4		
		イカナゴ敷網	3～5t船	(m・h/日)	370.0		
			5～10t船	(m・h/日)	22.4		
			刺網	3～5t船	(m・h/日)	340.0	
		イカ釣(地元)	3～5t船	(m・h/日)	0.0		

区分			数量	備考		
休業損失の回避 (沿岸漁業)	整備前 陸揚可能 漁船隻数	定置網・ 底建網	3～5t船 (隻)	4	⑮/⑥/⑦	
			5～10t船 (隻)	3		
			10～20t船 (隻)	2		
		イカナゴ 敷網	3～5t船 (隻)	20		
			5～10t船 (隻)	1		
		刺網	3～5t船 (隻)	1		
		イカ釣 (地元)	3～5t船 (隻)	0		
	整備後 陸揚可能 漁船隻数	定置網・ 底建網	3～5t船 (隻)	4	⑯/⑥/⑦	
			5～10t船 (隻)	3		
			10～20t船 (隻)	2		
		イカナゴ 敷網	3～5t船 (隻)	20		
			5～10t船 (隻)	1		
		刺網	3～5t船 (隻)	9		
		イカ釣 (地元)	3～5t船 (隻)	0		
漁業所得率 (%)			⑰	56.5	令和5年漁業経営調査報告書(令和7年3月農林水産省)	
休業損失額	定置網・ 底建網	3～5t船 (千円/年)	⑳	0	⑮×(⑯-⑰)×⑰ ※漁業種別・漁船階層別に算出	
		5～10t船 (千円/年)		0		
		10～20t船 (千円/年)		0		
	イカナゴ 敷網	3～5t船 (千円/年)		0		
		5～10t船 (千円/年)		0		
	刺網	3～5t船 (千円/年)		21,881		
	イカ釣 (地元)	3～5t船 (千円/年)		0		
休業損失回避額 (千円/年)			㉑	21,881	㉑の計	
震災1回当りの便益額 (千円/震災1回)			㉒	20,554	(㉑×11/12+㉑×12/12×0.962(社会的割引率4%))/2	
休業損失の回避 (養殖漁業)	対象漁業種の 年間属地陸揚金額		ホタテ養殖 (千円/年)	㉓	57,224	R1～R5港勢調査より5ヵ年平均
			カキ養殖 (千円/年)	㉔	3,087	
	漁業所得率 (%)			㉕	56.5	令和5年漁業経営調査報告書(令和7年3月農林水産省)
	休業 損失額	ホタテ養殖 (千円/年)	㉖	32,332	㉓×㉕	
		カキ養殖 (千円/年)	㉗	1,744		
	休業損失回避額 (千円/年)			㉘	34,076	㉖の計
	震災1回当りの便益額 (千円/震災1回)			㉙	32,009	(㉖×11/12+㉖×12/12×0.962(社会的割引率4%))/2

区分			数量	備考		
海上移動に係る時間・経費の削減効果	整備前 陸揚可能 漁船隻数	定置網・ 底建網	3～5t船 (隻)	4	⑰より	
			5～10t船 (隻)	3		
			10～20t船 (隻)	2		
		イカナゴ 敷網	3～5t船 (隻)	20		
			5～10t船 (隻)	1		
			刺網 3～5t船 (隻)	1		
	整備後 陸揚可能 漁船隻数	定置網・ 底建網	3～5t船 (隻)	4	⑱より	
			5～10t船 (隻)	3		
			10～20t船 (隻)	2		
		イカナゴ 敷網	3～5t船 (隻)	20		
			5～10t船 (隻)	1		
			刺網 3～5t船 (隻)	9		
	年間出漁日数	定置網・底建網 (日/年)		90	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
		イカナゴ敷網 (日/年)		34		
		刺網 (日/年)		64		
	整備前移動距離 (km)			⑲	200	図上計測(往復距離) 漁場～古平漁港
	整備後移動距離 (km)			⑳	10	図上計測(往復距離) 漁場～寿都漁港
	航行速度 (km/時間)			㉑	27.78	15ノット(1海里=1.852kmで換算)
	整備前移動時間 (時間/回)			㉒	7.2	㉑/㉒
整備後移動時間 (時間/回)			㉓	0.4	㉒/㉓	
漁業者労務単価		3～5t船 (円/時間)	㉔	2,075	令和5年漁業経営調査報告書(農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月)より	
		5～10t船 (円/時間)		2,843		
		10～20t船 (円/時間)		2,508		
移動 労務費 削減額	定置網 底建網	3～5t船 (千円/年)	㉕	5,109	㉒×㉑/㉓-㉔×㉒/㉓)×㉑×㉔ ※漁業種別・漁船階層別に算出	
		5～10t船 (千円/年)		5,250		
		10～20t船 (千円/年)		3,088		
	イカナゴ敷網	3～5t船 (千円/年)		9,650		
		5～10t船 (千円/年)		661		
		刺網 3～5t船 (千円/年)		526		
労務費削減額 (千円/年)			㉖	24,284	㉕の計	
震災1回当りの労務費削減額 (千円/震災1回)			㉗	22,812	(㉖×11/12+㉑×12/12×0.962(社会的割引率4%))/2	
漁船馬力		3～10t (PS)	㉘	215	定格出力北海道漁船統計表(令和5年)による算定値×0.8(航行中出力)	
		10t以上 (PS)		391		
漁船燃費率 (L/ps・hr)			㉙	0.17	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン-参考資料-(令和7年6月、水産庁)	
燃料単価(軽油) (円/L)			㉚	95.7	石油製品価格調査(経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部)	
燃料重量(軽油) (kg/m³)			㉛	820	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン-参考資料-(令和7年6月、水産庁)	
移動経費 削減額	定置網 底建網	3～5t船 (千円/年)	㉜	10,503	㉒×㉑/㉓-㉔×㉒/㉓)×㉑×㉔×㉙×㉚×㉛ ※漁業種別・漁船階層別に算出	
		5～10t船 (千円/年)		7,877		
		10～20t船 (千円/年)		9,550		
	イカナゴ敷網	3～5t船 (千円/年)		19,839		
		5～10t船 (千円/年)		992		
		刺網 3～5t船 (千円/年)		1,081		
移動経費削減額 (千円/年)			㉝	49,842	㉜の計	
震災1回当りの移動経費削減額 (千円/震災1回)			㉞	46,818	(㉝×11/12+㉑×12/12×0.962(社会的割引率4%))/2	
海上移動に要するコスト削減額 (千円/震災1回)			㉟	69,630	㉗+㉞	

区分		数量	備考		
陸上移動に係る時間・経費の削減効果	整備前対象台数	定置網・底建網 (台)	1		
		イカナゴ敷網 (台)	④⑧		
		刺網 (台)	1		
	整備後対象台数	定置網・底建網 (台)	1	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査	
		イカナゴ敷網 (台)	④⑨		
		刺網 (台)	1		
	年間出漁日数	定置網・底建網 (日/年)	90		
		イカナゴ敷網 (日/年)	⑤⑩		
		刺網 (日/年)	64		
	対象人数	(人/台)	[51]	2	
	整備前移動距離	(km)	[52]	200	
	整備後移動距離	(km)	[53]	1	地図より計測(往復距離)
	走行速度	(km/hr)	[54]	40.00	調査日：令和7年6月4日 調査対象者：寿都町漁業協同組合職員、寿都町職員 調査実施者：小樽港湾事務所職員 調査実施方法：ヒアリング調査
	整備前移動時間	(時間/回)	[55]	5.00	[52]/[54]
	整備後移動時間	(時間/回)	[56]	0.03	[53]/[54]
	労務単価	(円/時間)	[57]	2,210	令和5年漁業経営調査報告書（農林水産省大臣官房統計部、令和7年3月）より
	労務費削減額	定置網・底建網 (千円/年)	[58]	1,984	$(④⑧ \times [55] - ④⑨ \times [56]) \times ⑤⑩ \times [51] \times [57]$
		イカナゴ敷網 (千円/年)		750	
		刺網 (千円/年)		1,411	
	震災1回当たりの移動人件費削減額	定置網・底建網 (千円/震災1回)	[59]	1,864	$([58] \times 11/12 + [58] \times 12/12 \times 0.962(\text{社会的割引率}4\%))/2$
イカナゴ敷網 (千円/震災1回)			705		
刺網 (千円/震災1回)			1,325		
労務費削減額		[60]	3,894	[59]の計	
走行経費	(km/h)	[61]	46.21	費用便益分析マニュアル（国土交通省道路局都市局、令和7年8月）	
GDPデフレーター (R7)		[62]	110.2	内閣府経済社会総合研究所	
GDPデフレーター (R6)		[63]	110.2		
移動経費削減額	定置網・底建網 (千円/年)	[64]	828	$(④⑧ \times [52] - ④⑨ \times [53]) \times ⑤⑩ \times [61] \times [62]/[63]$	
	イカナゴ敷網 (千円/年)		313		
	刺網 (千円/年)		589		
震災1回当たりの移動経費削減額	定置網・底建網 (千円/震災1回)	[65]	778	$([64] \times 11/12 + [64] \times 12/12 \times 0.962(\text{社会的割引率}4\%))/2$	
	イカナゴ敷網 (千円/震災1回)		294		
	刺網 (千円/震災1回)		553		
移動経費削減額	(千円/震災1回)	[66]	1,625	[65]の計	
陸上移動に要するコスト削減額	(千円/震災1回)	[67]	5,519	[60] + [66]	
施設復旧費削減	-3.5m岸壁復旧費の削減額	(千円/震災1回)	[68]	1,752,536	-3.5m岸壁新設費用（撤去費用込）
	-3.0m岸壁復旧費の削減額	(千円/震災1回)	[69]	1,920,866	-3.0m岸壁新設費用（撤去費用込）
	道路復旧費の削減額	(千円/震災1回)	[70]	150,660	道路新設費用（撤去費用込）
	用地復旧費の削減額	(千円/震災1回)	[71]	202,860	用地新設費用
	施設復旧費の削減額	(千円/震災1回)	[72]	4,026,922	[68] + [69] + [70] + [71]
震災1回当たりの便益額	(千円/震災1回)	[73]	4,154,634	② + ⑦ + ⑩ + [67] + [72]	
年間便益額	(千円/年)		47,086	$[73] \times (1/75 - 1/500) \times (74/75)^{t-1}$ $\times (74/75)^{t-1}$ (t:施設供用後の経過年数)	

(5) 避難・救助・災害対策

①漁港整備による海難損失の回避

当漁港は、寿都島牧圏域における流通拠点漁港としての役割を担っている。寿都漁港の周辺海域で操業している漁船の一部は、港内の避難船収容数には限りがあるため、荒天時に避難が出来ず危険を冒して自港に帰港しなければならない状況となっている。南港区の整備及び北防波堤の改良により港内の静穏が改善されることで、寿都漁港で避難係留を行うことが可能となり、海難による損失を未然に回避することが可能となる。

区分		数量	備考		
漁船損傷に伴う損失	漁船規格	定置網 (ト/隻)	14.0		
		イカ釣り (外来) (ト/隻)	① 18.8	R1～R5港勢調査 利用実績より	
		底建て網等 (ト/隻)	4.1		
	漁船建造費 (千円/ト)	② 5,009	造船造機統計調査 (国土交通省) より		
	海難損傷別船体損傷率	(全損/全損)	1.0	港湾投資の評価に関する解説書2011	
		(重損傷/全損)	③ 0.7		
		(軽損傷/全損)	0.2		
	漁船損傷に伴う損失額	定置網	(全損) (千円/隻)	70,126	①×②×③ ※漁業種別・海難損傷別に算出
			(重損傷) (千円/隻)	49,088	
			(軽損傷) (千円/隻)	14,025	
		イカ釣り (外来)	(全損) (千円/隻)	④ 94,169	
			(重損傷) (千円/隻)	65,918	
			(軽損傷) (千円/隻)	18,834	
		底建て網等	(全損) (千円/隻)	20,537	
(重損傷) (千円/隻)			14,376		
(軽損傷) (千円/隻)			4,107		
漁業休業損失	損傷修繕期間	(全損) (日/隻)	180	港湾投資の評価に関する解説書2011	
		(重損傷) (日/隻)	⑤ 30		
		(軽損傷) (日/隻)	14		
	漁船損傷による漁業休業損失額 (円/日)	⑥ 35,998	港湾投資の評価に関する解説書2011		
漁船損失による漁業休業損失額	(全損) (千円/隻)	6,480	⑤×⑥/1,000 ※海難損傷別に算出		
	(重損傷) (千円/隻)	⑦ 1,080			
	(軽損傷) (千円/隻)	504			
人的被害損失額	(全損) (千円/隻)	200	港湾投資の評価に関する解説書2011		
	(重損傷) (千円/隻)	⑧ 200			
	(軽損傷) (千円/隻)	0			
避難船年間受入隻数	定置網 (隻/年)	1	静穏水域増による入港可能隻数		
	イカ釣り (外来) (隻/年)	⑨ 1			
	底建て網等 (隻/年)	2			
避難機会	定置網 (回/年)	13.2	瀬棚港沖波高計観測データによる荒天日数H25～R4の10カ年平均(出典) 全国港湾海洋波浪観測年報		
	イカ釣り (外来) (回/年)	⑩ 6.5			
	底建て網等 (回/年)	13.2			
損失区分別損失額原単位	定置網	(全損) (千円/隻)	76,806	④+⑦+⑧ ※漁業種別・海難損傷別に算出	
		(重損傷) (千円/隻)	50,368		
		(軽損傷) (千円/隻)	14,529		
	イカ釣り (外来)	(全損) (千円/隻)	100,849		
		(重損傷) (千円/隻)	67,198		
		(軽損傷) (千円/隻)	19,338		
	底建て網等	(全損) (千円/隻)	27,217		
		(重損傷) (千円/隻)	15,656		
		(軽損傷) (千円/隻)	4,611		
損失項目別発生比率	(全損) (%)	⑫ 0.078	港湾投資の評価に関する解説書2011		
	(重損傷) (%)	0.158			
	(軽損傷) (%)	0.218			
損失区分別年間便益額	定置網	(全損) (千円/年)	79,079	⑨×⑩×⑪×⑫ ※漁業種別・海難損傷別に算出	
		(重損傷) (千円/年)	105,048		
		(軽損傷) (千円/年)	41,809		
	イカ釣り (外来)	(全損) (千円/年)	51,130		
		(重損傷) (千円/年)	69,012		
		(軽損傷) (千円/年)	27,402		
	底建て網等	(全損) (千円/年)	56,045		
		(重損傷) (千円/年)	65,304		
		(軽損傷) (千円/年)	26,537		
便益案分率	定置網 (%)	⑬ 0.53			
	イカ釣り (外来) (%)	0.53			
	底建て網等 (%)	0.87			
年間便益額 (千円/年)		324,738	⑬の計		

※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

作業環境ランク表 (5) ①南埠頭及び屋根付き岸壁整備による陸揚・荷捌作業環境の改善 冬期以外(4~11月)

評価指標		ポイント	整備前	整備後	評価の根拠(整備前)	根拠(評価の目安)	
危険性	事故等の発生頻度	a.作業中の事故や病気等が頻発している	3			ほぼ毎年のように事故や病気が発生	
		b.過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2			直近5年程度での発生がある	
		c.過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	○		狭隘な作業用地でフォークリフトとの交差等の恐れがある。	
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	事故等の内容	a.生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3				海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b.一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2				転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c.通院不要で数日で完治するようなごく軽いケガ	1	○		狭隘な作業スペースでフォークリフトとの交差等の恐れがある。	軽い打撲等
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	危険性小計		0~6	2	0		
	作業環境	a.極めて過酷な作業環境である	5				極寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等
b.風雨等の影響が比較的大きい作業環境である		3	○		強風地帯のため通年で強風(平均風速6m以上)の影響を受けている。	風雨、波浪の飛沫等	
c.風雨等の影響を受ける場合がある		1					
d.当該地域における標準的な作業環境である		0		○			
重労働性	a.肉体的負担が極めて大きい作業	5				人力での漁船上下架作業、潮位差の大きい陸揚げ等	
	b.肉体的負担が比較的大きい作業	3	○		直射日光や通年で強風の影響により厳しい環境下での作業である	長時間の同じ姿勢での作業等	
	c.肉体的負担がある作業	1		○			
	d.通常の作業と同等程度の肉体的負担	0					
評価ポイント 計			8	1			
作業ランク			B	C			

Aランクの条件: 評価ポイント計16~13ポイント ※必ず「事故の発生頻度」、「事故等の内容」の両方の指標でポイントが上げられていること

Bランクの条件: 評価ポイント計12~6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計5~0ポイント

作業環境ランク表 (5) ①南埠頭及び屋根付き岸壁整備による陸揚・荷捌作業環境の改善 冬期外(12～翌年3月)

評価指標		ポイント	整備前	整備後	評価の根拠(整備前)	根拠(評価の目安)	
危険性	事故等の発生頻度	a.作業中の事故や病気等が頻発している	3			ほぼ毎年のように事故や病気が発生	
		b.過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2			直近5年程度での発生がある	
		c.過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	○		冬期の岸壁凍結により、危険な作業状況である	
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	事故等の内容	a.生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3				海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b.一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2	○		冬期の岸壁凍結に加え狭隘な作業スペースでのフォークリフトの交錯等により、危険な作業状況である	転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c.通院不要で数日で完治するようなく軽いケガ	1				軽い打撲等
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	危険性小計		0～6	3	0		
	作業環境	a.極めて過酷な作業環境である	5	○		日本有数の強風地帯であることに加え、雪、低気温の影響により非常に厳しい環境下での作業である	極寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等
b.風雨等の影響が比較的大きい作業環境である		3				風雨、波浪の飛沫等	
c.風雨等の影響を受ける場合がある		1					
d.当該地域における標準的な作業環境である		0		○			
重労働性	a.肉体的負担が極めて大きい作業	5	○		強風に加え、雪、低気温の環境下での屋外作業のため影響により厳しい環境下での作業である	人力での漁船上下架作業、潮位差の大きい陸揚げ等	
	b.肉体的負担が比較的大きい作業	3				長時間の同じ姿勢での作業等	
	c.肉体的負担がある作業	1		○			
	d.通常の作業と同等程度の肉体的負担	0					
評価ポイント 計			13	1			
作業ランク			A	C			

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント ※必ず「事故の発生頻度」、「事故等の内容」の両方の指標でポイントが上げられていること

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計5～0ポイント

作業環境ランク表 (5) ②物場場の改良整備による労働環境の改善

冬期以外(4~10月)

評価指標		ポイント	整備前	整備後	評価の根拠(整備前)	根拠(評価の目安)	
危険性	事故等の発生頻度	a.作業中の事故や病気等が頻発している	3			ほぼ毎年のように事故や病気が発生	
		b.過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2			直近5年程度での発生がある	
		c.過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	○		エプロンが急勾配であることに加え、老朽化で不陸となっており躓き、転倒が生じる危険な作業状況である	
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	事故等の内容	a.生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3				海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b.一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2				転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c.通院不要で数日で完治するようごく軽いケガ	1	○		エプロンが急勾配であることに加え、老朽化で不陸となっており躓き、転倒が生じる危険な作業状況である	軽い打撲等
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	危険性小計		0~6	2	0		
	作業環境	a.極めて過酷な作業環境である	5				極寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等
b.風雨等の影響が比較的大きい作業環境である		3	○		強風地帯のため通年で強風(平均風速6m以上)の影響を受けている。	風雨、波浪の飛沫等	
c.風雨等の影響を受ける場合がある		1					
d.当該地域における標準的な作業環境である		0		○			
重労働性	a.肉体的負担が極めて大きい作業	5				人力での漁船上下架作業、潮位差の大きい陸揚げ等	
	b.肉体的負担が比較的大きい作業	3	○		直射日光や通年で強風の影響により厳しい環境下での作業である	長時間の同じ姿勢での作業等	
	c.肉体的負担がある作業	1		○			
	d.通常の作業と同等程度の肉体的負担	0					
評価ポイント 計			8	1			
作業ランク			B	C			

Aランクの条件: 評価ポイント計16~13ポイント ※必ず「事故の発生頻度」、「事故等の内容」の両方の指標でポイントが上げられていること

Bランクの条件: 評価ポイント計12~6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計5~0ポイント

作業環境ランク表 (5) ②物場場の改良整備による労働環境の改善

冬期(11～翌3月)

評価指標		ポイント	整備前	整備後	評価の根拠(整備前)	根拠(評価の目安)	
危険性	事故等の発生頻度	a.作業中の事故や病気等が頻発している	3			ほぼ毎年のように事故や病気が発生	
		b.過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2			直近5年程度での発生がある	
		c.過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	○		エプロンが急勾配であることに加え、老朽化で不陸となっており、特に冬期は凍結により躓き、転倒が生じる危険な作業状況である	
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	事故等の内容	a.生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3				海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b.一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2	○		エプロンが急勾配であることに加え、老朽化で不陸となっており躓き、特に冬期が凍結により転倒が生じる危険な作業状況である	転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c.通院不要で数日で完治するようなごく軽いケガ	1				軽い打撲等
		d.事故等が発生する危険性は低い	0		○		
	危険性小計		0～6	3	0		
	作業環境	a.極めて過酷な作業環境である	5	○		日本有数の強風地帯であることに加え、雪、低気温の影響があり、車止めの設置がない急なエプロン勾配での作業のため、非常に厳しい環境下である	極寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等
b.風雨等の影響が比較的大きい作業環境である		3				風雨、波浪の飛沫等	
c.風雨等の影響を受ける場合がある		1					
d.当該地域における標準的な作業環境である		0		○			
重労働性	a.肉体的負担が極めて大きい作業	5	○		強風に加え、雪、低気温の環境下での屋外作業のため影響により厳しい環境下での作業で	人力での漁船上下架作業、潮位差の大きい陸揚げ等	
	b.肉体的負担が比較的大きい作業	3				長時間の同じ姿勢での作業等	
	c.肉体的負担がある作業	1		○			
	d.通常の作業と同等程度の肉体的負担	0					
評価ポイント 計			13	1			
作業ランク			A	C			

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント ※必ず「事故の発生頻度」、「事故等の内容」の両方の指標でポイントが上げられていること

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計5～0ポイント